

科目	衛生・公衆衛生学	担当	栗田 秀樹	履修学年	3年
時間数	90分×時限×16回(週1回)	履修区分	選択	単位数	2単位

【授業目標・到達目標】

衛生・公衆衛生学は地域・学校・産業集団の健康に関する個体・環境・社会的要因などの状況を把握・解析し、健康増進・疾病予防する学問です。本講義では疾病統計の推移、現在の生活環境問題、将来における健康の保持増進、労働に関する健康障害、地球環境をめぐる問題点と国際的な取り組み等を学び、この分野の知識が修得できる。

【履修注意】

各項目について積み重ねの講義になるので、全出席すること。

【評価方法】

試験成績(80%)、出席状況・講義受講態度(20%)等を総合的に評価する。

【試験について】

中間まとめ、定期試験を行う。

再試験対象者の条件：試験、講義受講態度等を総合的に評価し、60点未満者を再試験対象者とする。

【予習・復習】

学修時間は1単位45分が文部科学省指針である。本科目は2単位科目なので90分の講義に対して90分以上の自宅学習(予習、復習)が必要である。

【教科書】

「購入教科書なし」 その都度プリント配布

【参考書】

書籍名： 国民衛生の動向 著者：

出版社： 厚生統計協会

【その他の注意事項】

【授業計画・内容】

回数	項目	内容
1	衛生・公衆衛生学について	衛生・公衆衛生学の定義、目的、活動の歴史
2	環境保健(1)	地球環境問題と健康影響、環境汚染の評価、環境保全対策
3	環境保健(2)	公害、生活環境、廃棄物処理、放射線の健康影響
4	食品保健(1)	食事摂取基準、国民健康・栄養調査、食事バランスガイド
5	食品保健(2)	食中毒、食品衛生法、食品の安全性
6	予防医学	予防医学の概念、健康日本21(第2次)、生活習慣病
7	高齢者保健	高齢者医療確保法、介護保険法、高齢者福祉法
8	成人保健	感染性疾患・非感染性疾患、現状と動向、予防と流行対策
9	疫学	疫学指標、記述疫学、分析疫学、介入研究
10	衛生統計	人口動態・動態統計、疾病・障害統計
11	精神保健福祉	精神保健関連法規、現状と動向、地域精神保健活動
12	学校保健	学校保健関係法規、保健管理、現状と動向
13	母子保健	母子保健制度、現状と動向、母体保護
14	国際保健	国際協力、WHO、JICA、NGO
15	産業保健	労働衛生行政、労働衛生対策、職業性疾患、産業中毒
16	期末試験	15コマの復習・確認・総まとめ